

大学入学共通テストに関する情報

＋資格・検定試験の入試への利用

数研出版 編集部

2019年11月1日、文部科学省から大学入試英語成績提供システムの導入見送りが公表されました。本稿では、見送りの要因と今後の見通しについて簡単にまとめ、2021年度大学入学共通テストのポイントを確認します(情報は2020年3月20日時点；今後変更の可能性あり)。

1. 大学入試英語成績提供システム導入見送り

大学入試改革の1つの目玉とされていた大学入試英語成績提供システムだが、民間の資格・検定試験の受験に際して、「経済的な状況や居住している地域にかかわらず、等しく安心して受けられるような配慮」が欠如していたという理由で、導入の見送りが決定された。

今後については、本システムを「新学習指導要領が適用される2024年度に実施する試験から導入することとし、今後1年を目途に検討し、結論を出す」と発表されている。具体的には、「大学入試のあり方に関する検討会議」(月1～2回程度実施)にてさらなる検討がなされる予定である。

2. 2021年度入試の情報

2021年度大学入学共通テストについて、改めてポイントを確認する。

●試験内容

【リーディング】80分 100点

【リスニング】60分(うち解答時間30分) 100点

●問題作成方針

- ・発音、アクセント、語句整序等は単独問題では出題しない。
- ・リーディングとリスニングは均等配点とする。
- ・アメリカ英語の表記を基本とするが、場面によってはイギリス英語も使用される。
- ・リスニング音声は、多様な話者による現代の標準的な英語を使用する(試行調査のように、非母語話者の英語も含まれる可能性がある。)
- ・リスニングは、1回読みの問題と2回読みの問題の両方を含む。

なお、各大学の入学選抜時におけるリーディングとリスニングの比重については、それぞれの判断に委ねられており、配点通りリーディング対リスニングを1:1とする大学もあれば、3:1や4:1のようにリーディングに比重を置く大学もある。

〈例〉

1:1 北海道大、弘前大、一橋大、広島大 など

3:1 東北大、名古屋大、京都大、大阪大 など

4:1 福島大、筑波大、千葉大、神戸大 など

7:3 茨城県立医療大、東京大、下関市立大 など

3. 民間の資格・検定試験の大学入試への利用

前述の通り、大学入試英語成績提供システムの導入は見送られたものの、民間の資格・検定試験を入試に独自に導入する大学は増えている。この点には注意したい。

例えば、上智大学の一般入試(TEAP利用型)では、大学が定めるTEAPの基準スコアを取得していることが出願要件となっている。

立命館大学の一般選抜(大学入学共通テスト方式)では、英語資格・検定試験において一定水準以上のスコアを持っていると、「英語」の得点を満点に換算するという特例措置がある。

その他、加点や優遇といった利用方法を取る大学もあり、場合によっては合格のチャンスを広げられるため、しっかりと情報収集を行いたい。

なお、国立大学の情報は、国立大学協会のHP(<https://www.janu.jp/>)に各大学へのリンクが掲載されているので、参考になるだろう。